

校長室通信

平成24年度 第9号

下野市立南河内第二中学校

発行者 横島 清

H24.7.6

文月（ふづき）、7月になりました。明日7月7日は七夕です。本校昇降口にはお茶の間健康クラブの皆様手作りの七夕飾りが生徒たちを迎えています。生徒たちの中にも願いを込めて短冊を書いた人もいます。

現在、七夕には短冊に願い事を書いて飾りますが、かつては短冊に歌や字を書き書道の上達を願ったそうです。そのことにちなんで7月は文月となったようです。

さて、6月後半には体育祭を始め多くの学校学年行事がありました。生徒たちは、その行事への取組を通して、大きく成長したように思います。企画運営に関わる生徒、役員として係として活動する生徒、学級の一員として活動する生徒など場面によって立場を変えながら、今何を成すことがベストかを考え行動していたように思えます。個人の能力資質および集団としての活動力が大幅にアップしたと感じています。

7月21日からは夏休みとなります。それまでのおよそ2週間、最後までやるべきことはやる二中生であるために、安定した生活づくりに励みましょう。また、3年生にとっては、最後の夏季大会を控えていますので、学校全体で大会に向かう気力が充実するよう応援していきます。保護者の皆様のご協力もよろしくお願いいたします。



昇降口の七夕飾り

1 体育祭 黄色組（1年5組、2年6組、3年2組）優勝

降雨後のグラウンドコンディションが悪く、職員・生徒の会場整備の努力により開始できたのが10時になりました。その後、快晴となりグラウンドも最高の状態となり全種目を実施できました。和やかな雰囲気の中、全ての競技を実施することができました。その結果、閉会式が5時10分になったにもかかわらず、多くの保護者の皆様に残ってお付き合いいただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、学級旗コンクールでは全職員による厳正な審査の結果、1年1組、2年3組、3年1組が優秀賞を受賞しました。



力が入った綱引き



校歌で納めた閉会式

2 3年生修学旅行

6月22日（金）から24日（日）の予定で、修学旅行が実施されました。出発時には雨が降っていましたが、岡崎、安城を過ぎる頃から青空が顔を出し京都に着いた時にはすっかり天気が回復していました。

奈良の学級別選択コース研修では、平等院、奈良公園、法隆寺を2組を中心に一緒に研修させていただきました。二中生の見学態度、バスの中でのマナーの良さ等感じ取ることができました。2日目は、タクシーによる班別自主学習になり、生徒が多く訪れる竜安寺、金閣寺、清水寺方面に行きました。3日目は、5組と共に行動し北野天満宮で合格を祈願し、続いて扇子づくを体験、最後にゆっくりと東福寺を見学しました。

今回、特別企画として2日目に早朝散歩を実施しました。ホテルから嵯峨野度月橋、竹林を回る約1時間のコースです。誰もいない竹林での朝の空気を味わい生徒たちも満足していました。また、旅館での過ごし方もとても明るく爽やかで元気いっぱいでした。お世話をしてくださるスタッフの方々からお世話のし甲斐のある生徒さんたちです。と、大変喜ばれ感謝されました。ここに、不断の成果を活かした密度の濃い研修ができた3日間の修学旅行であったことをご報告いたします。



東大寺大仏殿



早朝の竹林散歩

3 2年生は社会体験学習、1年生は宿泊学習を実施

2年生は「職業人から学ぼう」というスローガンのもと、47事業所に分かれ社会体験学習を実施しました。実際の職業に触れ、働くことの意味を体感することが主な目標です。また、社会の一員として必要なマナーや社会性コミュニケーション能力などを地域の方にお世話になりながら学習しました。現在は、10日（火）の授業参観での発表に向けまとめを行っています。

1年生は、「深めよう自分と仲間と自然とを」のテーマのもと、なす青年の家での2泊3日の宿泊学習を実施しました。出発式で生徒には、「深める」のテーマのもと、①自然を満喫する。②二中生らしく、明るく元気に爽やかに笑顔一杯で活動する。③無事健康で帰る。の3点を話しました。那須は日光や益子などと共に、栃木県が誇れる場所であり郷土を理解し愛着を持ってもらいたい場所です。那須岳（茶臼岳）登山は、青年の家からですので辛い行程になりましたが、やり遂げた充実感は一生涯の支えになるのではないのでしょうか。各学年の感想や写真は学年・学級だより、授業参観などでご確認ください。

4 週案から

2週間の体育祭練習。朝、昼休み、全体・学年練習と大変良くやったと思います。当日も生徒が笑顔で明るく爽やかに活動でき、二中の良き伝統になったと思います。3年生が大きな声をかけ体育祭を牽引し、みんなで創り上げるというこの雰囲気大切に今後指導していきたいです。

体育祭の敬老テントでは、例年、午後には、空席が目立ったのですが、本年度は、午後もほぼ満席状態でした。閉会式まで参加して下さる方も多数見受けられました。天候の影響により、開始時間が遅れたこと、改訂版プログラムによって整理された種目から、今後の体育祭への示唆があるような気がします。生徒の表情から、本年度も目標が達成されたと思います。

予行の前後で生徒達に伝えたことは、「真剣に集中しなさい。その先に楽しさがみえる。」「君たちにとって“楽しい”とはどういうことなのか。」という事を考えてもらいたい。宿泊学習に向けていい雰囲気をつなげていきたい。体育祭当日、子ども立ちは本当に良くやっていた。“君たちのことを誇りに思う”と伝えた。でも、これからが正念場。学年のリーダーとしてしっかり育てていきたい。

宿泊学習では、1年生なりに頑張っていました。特に登山では、苦しいと言いつつも友達に「がんばれ」と声をかけていたり「大丈夫」とまわりに気を配ったりできた生徒もいました。この宿泊で学んだことがこれから生きてくるといいと思います。

1年生の自治医科大学見学の感想文を読みますと、学生との交流、教室見学、大学の先生の話の順にとりあげる割合が多かった。生徒の学びを考えたとき、まず、人とのコミュニケーションから学ぶ、見たり聞いたり、触ったり利する体験から学ぶ、最後に、話を一方的に聞くなど座学から学ぶのだろうと思いました。

5 各種学校行事の意味を考える

夏休み前の学校・各学年行事が無事終了しました。行事を総括して自分の考えを述べてみたいと思います。体育祭当日の各種目は見事な出来映えでした。しかし、6月4日練習初日は見るに堪えない状況でした。それから2週間担任と生徒たちの二人三脚が始まりました。各学級が7時10分には運動場に集合し、大縄跳び、学級対抗リレー、綱引き、二人三脚、・・・そして玉入れまで種目を少しずつ変えながら2週間練習しました。どうしたら勝てるか、どうしたらその競技をこのメンバーで上手に乗り切るか、うまくいくのか、各競技を科学者のように考え話し合い実践していました。私は、このみんなで考え実践するところに、二中らしさを感じています。当たり前なのですが、やることをきちんと全員で理にかなった方法でやれば大丈夫だ。大変なこともみんなで乗り切れれば大丈夫。何かをやるときは一人じゃない。そんな自信が付いたのではないのでしょうか。最終的に、全員が一生懸命取り組みそれぞれに充実感を持って終わったことの意味は大きい。

《宿泊学習や各種学校行事にはこんな意味があると考えています。》

宿泊学習は文字通り家を離れ宿泊して学習することです。家を離れることには保護者の方や生徒自身も不安があると思います。校長として私も、あえて危険を伴うかも知れない状況に1つの学年を送り出すのですから心配もあります。しかし、「他人の飯を食う」や「同じ釜の飯を食う」という言葉もあるように、中学生のこの時期に家では味わえない多少の辛さや不便を伴う生活を経験することは、今後の人生に大きくプラスになると考えています。家とは違う時間に、決められたことを決められたようにする。テレビはない、ゲームもない。おやつも好きに食べることはできない。3度3度の食事をきちんと食べなければひもじくなる。自分の勝手になることは何一つない。しかし、帰る頃になると、そのリズムに適応して苦にならなくなる。人間は、習慣の動物です。適応性が高いのです。

「今の子どもたちは私たちの頃と違って・・・」、という事をよく言いますが、今も昔も子供の本質は変わっていないと思います。それは、やらせてもらっていない。体験や経験の場が不足しているだけだと思います。どちらかというと今の社会構造上そのような体験や経験が普段はできないと言うことだと思えます。子どもは昔も今も明るく元気で活動力があり、やる事が分かると心を込めてしっかりとやります。その力を引き出し、方向付けするのが私たち大人の大切な仕事です。その最先端を担っているのが学校だと考えています。学校は、集団生活の場ですから、みんなで何かを成す事によって学びます。そのために学年・学校行事は最適な学びの場になります。

ちょっと嬉しい話 ～蛍かごをいただく～

ホテルは、丁度梅雨入りの頃に出できます。4年前に赴任した小学校では、近所の方のご厚意で3年生が年3回ホテルの学習会をします。私は今年で5年目になりますが、“今年も6月4日の日にホテルが出たよ。”と連絡があり、早速出かけました。毎年見るのですが飽きない。観察学習用ですので、ホテル小屋は小さめに3つ作ってあり、自然に近い状況で飛んでいます。さらに、次年度学習用に卵を得るため、水槽にも無数のホテルがいます。

ところで、7号の職員俳句に蛍かごがありました。蛍かごは子どもの頃父に作ってもらい自分では作れない懐かしいものでした。今回、一ついただき校長室の棚に飾ってあります。とても嬉しいです。さて、その蛍かごは、麦わらで作ります。6月最後の麦秋、そして収穫した後の麦わらで作るのです。収穫前の麦畑は茶色のグラディーションのパッチワークでとても素敵です。そして、そのわらを蛍かごにする日本人の生活感は凄いです。その心はこれからも受け継いでいきたいところです。